

長岡市中心市街地地区

(新潟県長岡市)

計 画 期 間 平成 18 年～平成 22 年
 面 積 92.5ha
 交付対象事業費 12,242 百万円
 市人口 282,214 人(地区内人口 6,871 人)

ポイント 合併後の長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり

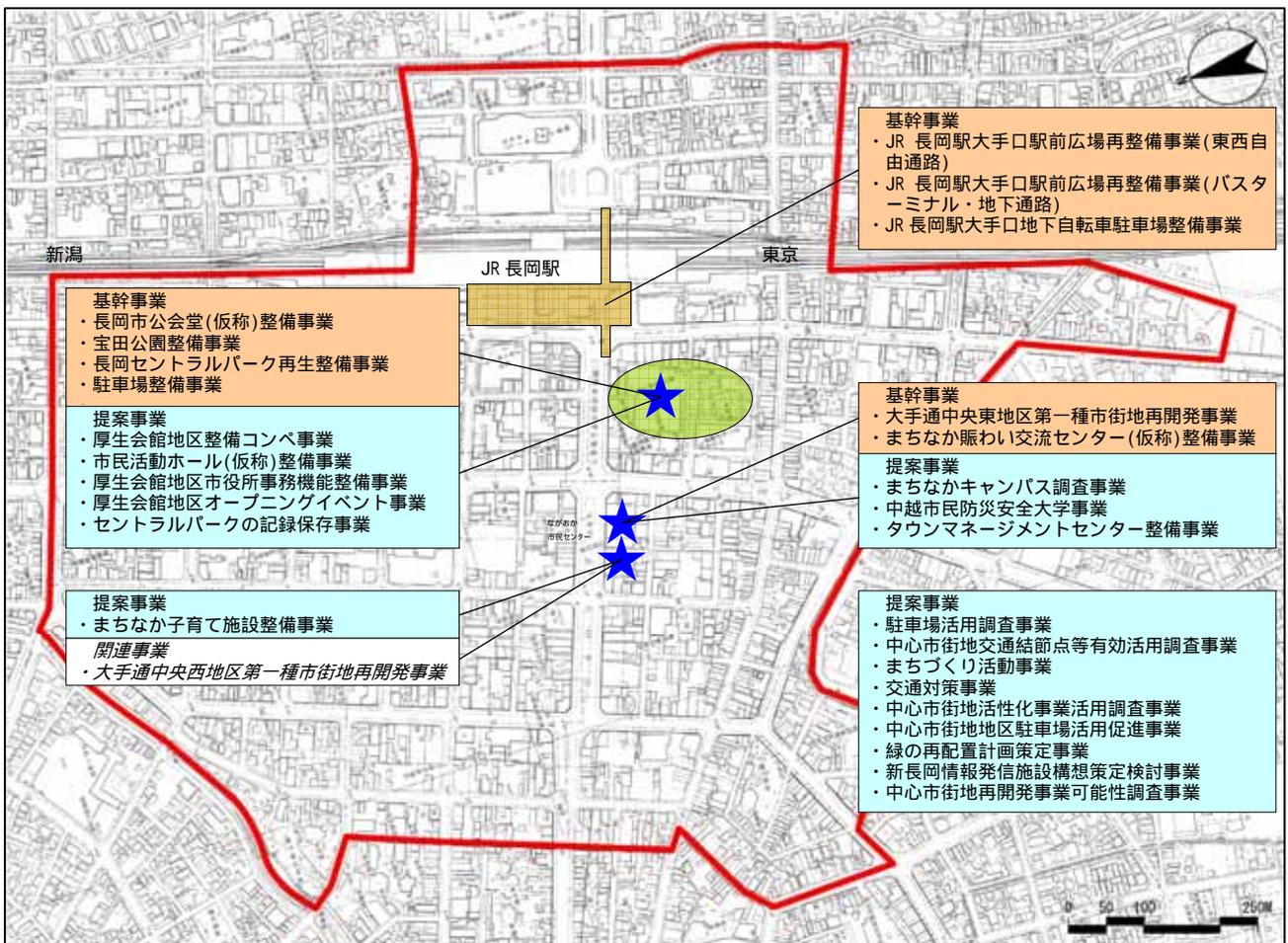
地区概要 既存施設の再整備、市街地再開発事業の促進による都市施設の整備、都市型住宅整備、空き店舗活用等により、交流人口の増加を図り、街の賑わいを再生する。

目 標 都市機能のまちなか回帰の促進と被災経験を活かした防災性と利便性の高い中心市街地の創造を図る。

指 標 「まちなか型公共サービス」の展開を起爆剤として、民間投資の誘発を図ることで、「まちなか回帰(来る人・住む人・働く人の増加)」を促進することを目標とした。

項 目	現況値 (年)	見込み値 (年)
歩行者通行量	69,974 人 (H15 年度)	70,000 人 (H22 年度)
中心市街地内居住人口	6,745 人 (H15 年度)	6,750 人 (H22 年度)
中心市街地内雇用者数	15,262 人 (H13 年度)	15,370 人 (H22 年度)

事業内容 基幹事業(9,144 百万円) 公園(2カ所) 地下自転車駐車場(1カ所、1,100台) 駐車場整備(1カ所) 観光交流センター(1カ所) 地域交流センター(1カ所) 他
 提案事業(3,098 百万円) 市民活動ホール(仮称)整備、厚生会館地区市役所事務機能、まちなか子育て施設、交通対策 他



地区の現況と課題

- ・ 中心部の居住人口の減少や公共公益施設の郊外移転、大規模商業施設の閉店に加え、大型小売店等商業施設の郊外展開により、中心市街地の空洞化や活力の低下が大きな問題となっている。
- ・ 長岡広域圏全体の活性化につなげるために、郊外化による多極分散から市民にとって必要な機能を中心市街地に再集積することが課題である。

提案事業の特徴

全国初のまちなか回遊型市役所

郊外に移転した市役所機能を、広域合併した長岡市民の誰もが集まりやすい中心市街地に効率的に再配置することにより、波及効果を狙った全国初のまちなか回遊型市役所として整備する。

まちなか子育て施設整備事業

市民から好評を得ている「ちびっこ広場・まちなか保育園」を拡充し、再開発ビルにまちなかにおける子育て支援拠点として整備する。

計画策定プロセス

ながおか市民センターをオープン

市民と行政の協働のまちづくりの実証実験の場として、平成 13 年 10 月に中心市街地の民間空きビルを賃借しオープン。市民が育てていく施設として、利用者の声をもとに新たに施設を開設するなど日々進化。専用駐車場は無いが公共交通機関の結節点に位置し、これまで 193 万人(平成 19 年 5 月末現在)から利用され好評を得ている。

長岡市中心市街地構造改革会議を設置

市民センターの成功事例を踏まえ、平成 15 年度に「長岡広域市民の『ハレ』の場」としてのあるべき姿を検討するため設置。検討結果の提言では、「『まちなか型公共サービス』の展開を起爆剤として、まちに来る人、住む人、働く人の増加を図る」としており、提言実現のための先導的事業の早期事業化が求められたことから平成 17 年度に本整備計画を策定した。

市民との協働によるまちづくりの実現へ

ながおかタウンマネジメント企画運営会議(市民まちづくり団体を核として、市民、市、中心市街地内各商店街等との協働による「ながおかオリジナルのまちづくり体制」を構築すべく、体制づくりの検討を行っている。

長岡市長森民夫氏のコメント

長岡市は、前総理大臣の所信表明演説にもありました「米百俵のまち」として知られております。これは、「国が興すのも、街が栄えるのも、人にある。」という理念であり、私は市民の力やアイデアには無限のものと信じております。

市役所のまちなか回帰と市民協働型のシティホールを骨子とした本市の計画は、ただハードだけを整備するのではなく、市役所を中心に市民と一緒にまちづくりを考える場としたいというコンセプトであります。

今後も「市民との協働によるまちづくり」を基本とし、長岡の良さをいかした長岡発の個性的なまちづくりを全国へ発信してまいりたいと思います。



人通りの少ない中心市街地の商店街



まちなか子育て施設の活動イメージ



ながおか市民センター(正面入口)



長岡市中心市街地構造改革会議の様子



「まちなか型公共サービスの展開」を背景にした整備イメージ